

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

東京民医連医学部奨学金制度

- ◆対象：医学生で本制度の趣旨を了解した人。
 - ◆返済免除規定あり。
 - ◆問い合わせ：代々木病院・中野共立病院合同医学生担当まで。
- 電話03(3404)7680
Email:yo_igakusei@tokyo-kinikai.com

指導医と一緒に悩みながら指導

研修医・伊藤洪志医師の歩み

民医連の研修は自分には良かった

東京民主医療機関連合会では、民医連の理念に共感し患者さんの立場にたった医療をすすめる医師の養成を目的に、医学部奨学金制度を設けています。民医連の奨学生だった伊藤洪志(いとうこうじ)医師(東葛病院で初期研修中)に聞きました。



血圧をはかる伊藤医師

医師をめざしたきっかけは？

中学生の頃、祖母に付き添って何度か中野共立病院の外来やリハビリに行ったときに、リハビリスタッフや医師の姿を見て、こういう仕事は直接人のためになる仕事なんだろうと感じ、高校生になってから医学部をめざす決心をしました。

どんな奨学生生活動をしましたか

進学した筑波大学医学部には、民医連の奨学生が数人いて毎月1回ミーティングを行っていました。この年、アメリカのイラク侵略が始まったので、日本

のためではなく、1人の力のある医師として社会に貢献するためのものだと考えています。

綱領に共感し共に働く医師を育てたい

代々木病院 院長 井上 均

います。



それは、医療や介護、福祉がだれでも平等に受けられるべきだ、そして1人ひとりの人権がしっかりと守られるべきだということです。もちろん医師としての力をしっかりとつける

皆さんは、医師(臨床医)に対してどういうイメージを持っていますか？ 私たち民医連は、医師として心がける事、あるいはめざすことを綱領に決めて

誰かが安心して受けられる医療と福祉の実現のために、民医連の綱領に共感し私たちと共に働く医師を育てた



伊藤洪志医師

国憲法について学びました。また、劣化ウラン弾のことなど知らなかったことがたくさん学べました。戦争と医療が関わりがあることを感じました。

心に残った患者さんは

研修1年目のときに担当した、症状の進んだ肺ガンの患者さんのことです。

入院後1カ月で亡くなりましたが、最後は一週間ほど病院に泊まり込んで治療にあたりました。良くならないと分かっている患者さんへの緩和ケアがなかなか上手くできなくて苦勞しました。家族にも人工呼吸器をつけるかどうかなど最後のことを聞くのですが、患者さんご本人にはなかなか切り出せなくて悩みました。しかし、患者さんは私のことを「主治医」と思って信頼してくださるので、自分なりに一生懸命治す。まさに現代は医師を地域でつくる時代なのです。

いと考えています。みなさん、お知りあいの医学生さんをぜひご紹介ください。

私たちの力で

医者を育てよう！

代々木健康友の会 会長 石橋 勝



する「そんな医療が実現したらいいなと思います。命の尊さを本当に知っている民医連なら一緒に頑張れるような気がします。

私は「腕が良くて、時にはじっくりと話を聞いてくれて、先生の顔を見るだけで半分病気が治ったような気がする

核家族化が進み独居の老人が増加し、医師が家庭に向き診察し様々な患者さんに接する機会が増えていま

(※)プライマリケア…患者が最初に接する医療の段階。それが身近に容易に得られ、適切に診断処置され、また以後の療養の方向について正確な指導が与えられることを重視する概念で、そのために訓練された一般医・家庭医(プライマリ・ケア医師)がその任にあたる。(日本プライマリ・ケア連合学会のホームページより抜粋)

療にあたりました。指導医と一緒に悩みながら指導してくれました。民医連の病院での研修は自分には良かったと思います。今後は、プライマリケア(※)ができる総合医をめざそうと思っています。

友の会・読者のみなさんへ一言

医学生るとき、友の会の方には班会参加や会長との懇談、ミーティングで食事を作っていたりたりするなかで、民医連の病院は地域の人に支えられているということを実感しました。こうした体験は医学生時代にぜひした方がいいと思います。

友の会のみなさんには、お知り合いの医学生に民医連の医学部奨学金制度についてぜひお知らせいただき、民医連医師の後継者育成にご協力をお願いしたいと思っています。

聞き手・代々木病院・中野共立病院合同医学生担当 橋田淑子

手術台

通勤路から富士山が見える。10年通って初めて気がついた。

これも異常乾燥のせいだろうか。白嶺を見ながら、都民が新燃岳爆発の被災者の苦悩を共有するには、富士山が噴火するしかないー！と思っ

た▼天変地異・大事件の映像は瞬時に世を駆け巡る時代である。その影響もすばやく出る。昨夏の酷暑は秋野菜の高騰を招き、円高は不況を深刻化させている。その割には私たちはおっとりしている。エジプト問題にしろ、いかに早く情報が届いてもその想いを共有するわけでもなし、行動するわけでもない。したとしてもブログやツイッターの中で、である▼私たちは「遠くを持つ豊かさ」を失って久しい。いまは、情報が速くなるほど「出来事を我がことと受け止めること」が、出来にくくなる時代」に入っている。さりと次の映像に切り替わってしまっからである。自分の目で見えるわけではないもの(パッチャル)を現実視して生きざるをえない現在「人が人と出会う」ことは一層難しくなるだろう。(ま